

令和４年１２月定例会 意見書一覧表

件	名	提 出 者	賛 成 者
〔発議第８号〕 コロナ後遺症への対策強化を求める意見書提出 について (令和４年１２月１６日 採択)		平 山 光 生	阿 部 隆 弘 江 口 智 子 千 葉 清 正 鈴 木 克 弘 吉 田 貫 一 松 村 康 弘

発議第8号

コロナ後遺症への対策強化を求める意見書提出について

コロナ後遺症への対策強化を求める意見書を、中標津町議会会議規則第14条第2項の規定により別紙のとおり提出する。

令和4年12月16日提出

中標津町議会議長 後 藤 一 男 殿

提出者 中標津町議会議員 平 山 光 生

賛成者 中標津町議会議員 阿 部 隆 弘

中標津町議会議員 江 口 智 子

中標津町議会議員 千 葉 清 正

中標津町議会議員 鈴 木 克 弘

中標津町議会議員 吉 田 貫 一

中標津町議会議員 松 村 康 弘

コロナ後遺症への対策強化を求める意見書

新型コロナウイルス感染症から回復した後も、長期にわたって疲労感、呼吸困難、筋力の低下、記憶障害などの後遺症（コロナ後遺症）に苦しむ人が多いことが、厚生労働省研究班の大規模調査で分かってきた。

症状としては、不安や抑うつ、恐怖感、睡眠障害の傾向が強いことも特徴的で、「ブレインフォグ（脳の霧）」の報告もある。中にはコロナ後遺症によって活力が低下し、仕事の能率が下がったと自覚する人もいる。

その一方で、検査をしても異常が発見されないことから、患者が医療機関をたらい回しにされる事例もある。また、コロナ後遺症に対する医療従事者や周囲の理解不足が患者をさらに苦しめている。

コロナ後遺症は通常の保険診療であることから、医療費の負担が重くのしかかり、そもそも発症の仕組みはいまだに解明されていないために、どのような症状がどのような人に起こり、どれだけ長く続くのかも解明されておらず、効果的な治療法も確立されていない。

爆発的に感染が広がったオミクロン株による後遺症患者がさらに増える可能性があり、対策を強化する必要がある。

よって、国においては、悩んでいる患者に寄り添い、以下の施策を実施することを強く求める。

記

- 1 コロナ後遺症に悩む人の相談体制を整備するとともに、診療可能な医療機関を拡充するなど、地域の医療機関で迅速に診療を受けられるようにすること。
- 2 コロナ後遺症の影響で仕事を失ったり休業を余儀なくされたりする人が相次いでいることから、職場への復帰や再就職、さらに福祉施策と結びつけた支援を行うこと。
- 3 コロナ後遺症への理解啓発を行うとともに、社会全体で認識を深め、患者が孤立することがないように積極的な情報発信を強化すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月16日

北海道中標津町議会議長 後 藤 一 男

【提出先】 衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 内閣官房長官

厚生労働大臣 ワクチン接種推進担当大臣
新型コロナ対策・健康危機管理担当大臣